会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和6年度第7回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	令和7年2月13日(木) 14時～16時		
開催場所	小金井市野川クリーンセンター		
出席者	委員	<出席者：12名> 渡辺会長・岡山副会長・溝入委員・岸野委員・中村委員・橋爪委員・林委員・北村委員・清家委員・長友委員・石原委員・井上委員 <欠席者：3名> 光明委員、多田委員、保谷委員	
	事務局	今井ごみ対策課長・鈴木ごみ処理施設担当課長・立崎減量推進係長・竹内清掃係長・高橋施設係長・高花主任・菊地主事	
	計画策定 支援受託者	パシフィックコンサルタンツ株式会社 山口 侑也担当技術者、三浦 拓徒担当、立野 悠太担当	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 2 報 告 3 議 題 (1) 令和7年度小金井市一般廃棄物処理計画について (2) 小金井市一般廃棄物処理基本計画等について (3) その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他			

渡辺会長	これより令和6年度第7回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。
立崎減量推進係長	(配付資料確認) (会議録確認)
中村委員	P1のアンケートのURLに関して、「個別となっているか」のような表現に修正いただきたい。
林委員	P5の「あまり関心はない」を「あまり話題に上がっていない」に修正いただきたい。
渡辺会長	P3の今井ごみ対策課長の回答に関して、「市の可燃ごみを焼却している浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設では水分を減らした方が望ましい状況である。」を追記していただきたい。
渡辺会長	P4中村委員の発言に関して、学校と連携して「資源等の」拠点回収とすべきである。
岡山副会長	句点が二つあるところがあるので、全体的に体裁を整えていただきたい。
事務局	修正したものをメールにて送付し、了承いただいた後ホームページに掲載することとする。
今井ごみ対策課長	(リネットジャパンリサイクル株式会社及びSGムービング株式会社との連携協定締結について報告)
渡辺会長	収集費用を別途払って、回収してもらえるものなのか。費用はこれから提示するのか。
今井ごみ対策課長	認識の通りで間違いない。インターネットで、それぞれの品目ごとに料金を確認できる。テレビや冷蔵庫など大型の品目も含まれるため、市民の皆様にとって有用なサービスになり得ると考えている。

渡辺会長	家電リサイクル法に関して、収集は一般廃棄物処理の許可業は必要か。
今井ごみ対策課長	SGムービングが収集業の許可を持っており、リネットジャパンが処理業の許可を持っている。
岸野委員	不当な料金を請求されることはないか。
今井ごみ対策課長	適切に回収されるため、そういうことはない。
井上委員	市民としては、家電の対応窓口が市に一本化された、という理解でよいのか。案内いただいた業者にお問い合わせすれば、適正な処理がされるのか。
今井ごみ対策課長	<p>リネットジャパンとは小型家電のリサイクルに関して既に協定を締結している。</p> <p>テレビ、冷蔵庫、エアコン等の家電リサイクル品は、市で回収することはできない。民間の廃品回収業者が回収すると適切に処理されないリスクがあるため、今回の窓口を活用することで適切に資源が循環することになる。</p> <p>市のホームページやチラシの二次元コード、電話等で案内しており、費用としては送料に加えてリサイクル料がかかる。</p>
立崎減量推進係長	(令和7年度小金井市一般廃棄物処理計画について主な変更箇所を説明)
渡辺会長	答申に向け、本日の審議会で基本的に内容を固めたいと考えている。
林委員	<p>P2の「べールを作製する」という文言は「べールを作る」で良いのではないか。</p> <p>「関心をもって取り組んでいく」を「さらに努力して取り組んでいく」とするほうが良いのではないか。</p> <p>P9の家電4品目について例示を記載していただきたい。</p> <p>P11の市民一人当たりの排出量の推移(項目別)について、</p>

	<p>文言を修正したほうが良いのではないかと。また、「達成していますが、今後も～」に修正して、繋げた方が、自然な表現に見える。</p>
今井ごみ対策課長	<p>家電の対象品目については、大区分の4品目を列挙し、その他文言を修正する。</p>
渡辺会長	<p>P 4 (2) は次のページが良いのではないかと。 P 8 の取組結果の数値の移り変わりがいつからいつまでなのか、もう少し分かりやすく記載したほうが良い。</p>
事務局	<p>比較の期間は令和5年1月～12月と令和6年1月～12月の実績値で表現している。</p>
岡山副会長	<p>P 9 の修正前も修正後も年度の実績になっている。(1月1日～12月31日) と注釈で記載するほうが良い。</p>
橋爪委員	<p>P 1 2 からの重点項目は何をやるのかわかりにくい。 災害廃棄物処理に関心を持たせるような重点項目の施策や、生産者側に対するごみ減量の施策はないのか。</p>
渡辺会長	<p>生産者側への施策は、小金井市単独では難しいので明言していないのではないかと認識している。</p>
岡山副会長	<p>単年度計画であるため、基本計画に反映するのがよいのではないかと。</p>
渡辺会長	<p>災害廃棄物対策に関する内容は、P 1 4 に記載してある。</p>
石原委員	<p>P 1 3 の施策や取組の「見える化」について、外国人向け別啓発の「発」が抜けている。</p>
岸野委員	<p>メタウォーターサステナブルパークこがねいの略称はないのか。</p>
事務局	<p>正式名称で呼称いただきたいが、日々の会話の中で個人が略</p>

	<p>称をつけることは差し支えない。</p>
渡辺会長	<p>浅川清流環境組合施設が可燃ごみ、野川クリーンセンターが不燃ごみ、サステナブルパークこがねいが資源を取り扱う施設なので、資源物処理施設で良いのではないかな。</p>
清家委員	<p>P 1 1 の令和 5 年度の実績は令和 6 年度の数值にできないか。令和 1 2 年度の目標は人口変化も考慮しているのか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>P 1 1 の令和 6 年度の実績値は令和 5 年度の実績値の誤りである。令和 1 2 年度の目標値は現行計画策定時に設定した目標値であり、令和 5 年度時点で令和 1 2 年度の目標より更にごみ減量が達成できているという状況である。</p>
渡辺会長	<p>グラフには計画策定当初（平成 3 0 年度）のごみ量も載せるなどして分かりやすくしてはどうか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>全体を通して体裁を整える。</p>
橋爪委員	<p>言い回しについて、P1 の「発生抑制に最優先に取り組み最大限のごみ減量を」の「を」を「に」に変えるべきではないか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>現在、市として取り組んでいくと掲げているのは、発生抑制であるため、このような表現にしている。</p>
橋爪委員	<p>発生抑制は生産者側の努力目標ではないか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>ご意見のとおりではあるが、消費活動の中においても、ごみを出さない生活スタイルにしたいとの意味でのスローガンである。</p>
岡山副会長	<p>行動に対する目的語のため「を」でも「に」でも間違いではないと考える。</p>
今井ごみ対策課長	<p>その意図である。</p>

岡山副会長	例えば、マイバッグや水筒の活用は発生抑制に繋がり、そういった消費者側の行動を市が推進するというものであるから、発生抑制に取り組むスローガンの理念自体に違和感はない。
溝入委員	現在のスローガンで問題ない。
橋爪委員	目次のページ番号を修正してほしい。
岡山副会長	P 1 3 の生ごみ資源化モデル事業は、今年度実施する重点課題というものであるため、個人的には強調したい。令和 8 年度以降に全域を目指すものか。
事務局	<p>来年度、重点的に取り組んでいきたいと考えていることを説明する。</p> <p>P 1 2 粗大ごみのオンライン申請試行実施を予定している。</p> <p>P 1 3 生ごみ資源化施策は、一部戸建世帯の戸別回収と、メタウォーターサステナブルパークこがねい、野川クリーンセンターでの生ごみの拠点回収のモデル回収を予定しており、今後の懸念事項の洗い出しを行う予定である。集合住宅をどのように実施していくのかは今後の課題と考えている。一概に可燃ごみ、不燃ごみと同様の対応（回収）は難しいかもしれないが、何かしらの取組みを行っていきたい。</p> <p>次に、外国人向けのごみ分別啓発チラシの作成と、アプリの言語の追加を予定している。</p> <p>また、メタウォーターサステナブルパークこがねいでは、見学者ルートを構築しているため、見学・定期的なワークショップの実施を予定しており、現時点では、月 1 回のイベントを目標としている。</p> <p>そして、ごみゼロ化推進員には災害廃棄物の部分で活躍いただきたいと協議を進めていきたいと考えている。</p> <p>事業系のごみ発生抑制については、来年度以降も東京都環境公社のご協力の下、大規模事業所の立入調査を予定している。</p>
石原委員	P 2 7 の「資源物処理施設」が正式名称でない。
今井ごみ対策課長	修正する。

中村委員	<p>令和7年の取り組みについて、自治体に限らず、民間事業者にも働きかけ、希望制でチラシや通知等の電子化、ペーパーレス化について取組強化をしてはいかがか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>地方公共団体に求められる電子化・オンライン化の項目が定められており、今回の粗大ごみのオンライン申請はそのうちの1つである。</p> <p>マイナポータルは行政側のサーバーと切り離されているため、現状の運用は難しい。</p> <p>紙ごみ減量を推進する取組について、市ではDX推進アクションプランを定めており、紙ごみを減らす取組について進めているところである。ごみ対策課においても、仮設トイレ等のし尿の汲取申請において、メールや入力フォームでの対応を進めている。また、令和7年度小金井市施設ごみゼロ化行動計画においても、紙ごみの削減に向けた取組を目標に掲げているところである。</p>
岡山副会長	<p>P25の災害廃棄物について、「がれきの仮置場に関する考え方を示しています。」の文言を修正していただきたい。</p>
今井ごみ対策課長	<p>修正する。</p>
岸野委員	<p>まち美化部会での駅頭でのPR活動再開は可能か。また、不法投棄の見回り対策を実施することは可能か。</p>
今井ごみ対策課長	<p>コロナ禍以降、活動再開について難しい状況である。まち美化部会とも調整し、メタウォーターサステナブルパークこがねいのイベント時に何らかのPRをするなどの取組を考えている。</p>
渡辺会長	<p>答申内容は正副会長の一任としたい。</p> <p>答申内容は各委員に配布する。</p>
立崎減量推進係長	<p>(小金井市一般廃棄物処理基本計画等(ワークショップ及び食品ロス削減推進計画質問回答一覧)について説明)</p>

	<p>特段の意見なし。</p>
策定支援受託者	<p>(災害時に発生する廃棄物の対応方針の検討について説明)</p>
渡辺会長	<p>P 5は混廃化することが前提の記載ぶりであるが、そうなることは回避が難しいのか。</p>
策定支援受託者	<p>混廃化を防ぐ対策は行っているが、過去事例で防ぐことは難しかったことを踏まえた表現としている。混廃化を許容しているわけではないが、有事の際に混廃化してしまうリスクを想定して取り組むべきとの考えである。地区集積所で混廃化が想定されている。</p>
渡辺会長	<p>混廃化を加味したフロー図は提示しないか。</p>
策定支援受託者	<p>混廃化は地区集積所で市民が出したごみが混ざること、戸別回収で混ざることがあり、一次仮置場では混廃化していることは想定しているが、あくまでも許容しているわけではないのでフロー図上であえて記載することは想定していない。</p>
岡山副会長	<p>災害によってごみの性状が異なる。混廃化は仕方ないと思う。地区集積所で混廃化したものを仮置場とは別の、分別するためのヤードを設置した事例もある。そのように混廃化を避けるのは難しいが、できるだけ発生させないためのフローが示されている。効率良く処理する提案と考えていただきたい。</p>
策定支援受託者	<p>一次仮置場を設置することに伴い、場所以外にも運営のための人員や資機材の他、管理費用が必要であり、設置数は限定する必要がある。そのため、発災後に必要な数を設けることとなる。混廃化は過去事例を踏まえると、ゼロとすることは極めて困難である以上、仮置場は必要となるため、掲載している。</p>
中村委員	<p>過去事例では災害時のごみの出し方について周知徹底をされているように感じないが、適切な周知徹底を行うことで混廃化を軽減することはできると考えるが、そのようなことはできないのか。</p>

策定支援受託者	<p>ご意見のとおり、発災前にできることは計画で定めるべき内容である。一方で、周知徹底できたとしても、実態としては発生してしまうのではないかと懸念する。</p> <p>その観点から考えると、混廃化しない計画は行政の立場として策定し得ないのではないかと考える。</p>
渡辺会長	<p>仮置場の設置は、混廃化を防ぐためではなく、処理が追い付かないため設置するという整理でよいか。</p>
策定支援受託者	<p>災害の規模によるため、ほかの対応が可能であればそのほうが良い。災害の規模によって対応できる計画にするべきだと考える。現在は最大規模を前提に整理している。</p>
岸野委員	<p>年号で書いているが、西暦で書いてほしい。</p>
策定支援受託者	<p>配慮する。</p>
渡辺会長	<p>町内会、自治会での平時からの理解が重要な気がする。</p>
石原委員	<p>事前の啓発はすべきだと考える。災害ごみの出し方について集合住宅の場合については平時から整理しておく必要がある。</p>
岡山副会長	<p>発災時のごみの出し方について、事前の整理が必要であると考える。</p>
今井ごみ対策課長	<p>処理先の事情もあるため、災害時にどのような受け入れをしていただけるのかを整理していく必要がある。</p>
石原委員	<p>インフラの復旧率は。</p>
策定支援受託者	<p>東京都では以前より早くなっている。</p>
橋爪委員	<p>P 1 2 の平時からの管理体制とは何を指すのか。</p>

策定支援受託者	<p>一次仮置場は比較的大きな木くずのようなものが想定されるため、破碎するためのアタッチメントが付いた重機を用意したり、その他、敷き鉄板も必要であったり、重機を稼働させるための人手が必要で合ったり、そのようなことを指している。このような内容は、民間事業者も活用が必要なので平時から管理が必要である。</p>
橋爪委員	<p>情報発信はないのか。</p>
策定支援受託者	<p>現時点では、一時仮置場に住民が来ることは想定していないため、発災後の情報発信はあり得るかもしれないが、発災前の情報発信は、禁忌物等の周知のみの認識である。</p>
中村委員	<p>地域の特性について、整理されているものだけだと不十分だと思う。</p> <p>漠然としていると思うため、現実的な落としどころを定めておく必要がある。</p> <p>起こる確率が低いものに対策を多くするのは効率が良くない。起きた際の準備として、事前に災害時対応の協定を結んでおくなど、そのためにもどの地区でどの程度の災害が起こるためどのような対策を行うのかを整理する必要がある。</p>
渡辺会長	<p>水害想定地域の掲載はあっても良いのではないかと。</p>
岸野委員	<p>小金井市で特に想定される地震を中心に、行政、市民が事前、発災後にすべき行動を明確に書くべきではないかと。</p> <p>現状のものは具体性がないのではないかと。</p>
策定支援受託者	<p>東京都が見直した被害想定調査で、小金井市で最も大きい被害になると想定される災害を想定して資料を作成している。</p> <p>具体的な災害内容については、今後分かりやすく標記する等の工夫をしたい。</p>
今井ごみ対策課長	<p>今までの資料でも整理しているが、一つひとつの資料で見ると分かりにくいいため、資料の見せ方は工夫する。市の地域特性から、一次仮置場だけで充足できるものではない中での現実的</p>

	<p>な手法を提案している。</p> <p>災害協定を現時点では結んでいるが、整理しきれていないのが現状なので、今後少しずつ調整していく。</p>
長友委員	<p>現時点では発災時の役割がわかりづらいため、今後示してほしい。</p>
中村委員	<p>災害時のための予算を基金として確保していく必要があるのではないか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>基本的に自治体の予算は総計予算主義のため、災害のための予算を事前に確保するという考え方は持っていない。災害が発生した際には災害復旧に係る補正予算を計上することになる。</p>
岡山副会長	<p>廃掃法に基づき、基本的に50%の補助が出る。</p>
策定支援受託者	<p>それに加え、補助裏の8割（全体の4割）が交付税措置の対象になるので市の負担は10%程度か、それより低い。過去の大規模災害では、市町村の持ち出しがゼロという事例もある。</p>
林委員	<p>何が議論されているのかよく分からない。資料には伺いたい意見としてあるが、我々から意見を聞くような内容がないのではないか。議論の方向性が良くわからないので改善していただきたい。</p>
今井ごみ対策課長	<p>今後の資料のつくり方は工夫する。</p>
立崎減量推進係長	<p>次回の審議会は令和7年4月上旬を予定している。改めて周知する。処理基本計画、処理計画の骨子案を作成し、委員へメールでお送りする。</p>
渡辺会長	<p>以上をもって審議会を終了する。</p>